

青森ねぶた祭検討特別委員会・第1回会議概要

日 時：平成17年7月21日（木）13時30分～16時00分

場 所：ラ・プラス青い森

出席者：蝦名委員長、佐藤副委員長、對馬委員、千葉委員、太田委員、奈良委員
澤田委員、柳谷委員、小笠原委員

正副委員長挨拶

〈委員長〉

- ・日本に誇る青森ねぶたにも、まだまだ課題や問題点があり、解決に向けいろいろ対策中である。
- ・時代にあった青森ねぶたにしていくことが、我々の大きな役割
- ・五所川原の立ちねぶたとか、或いはいろいろな他都市の祭など、祭そのものが都市間競争に入っており、来年以降に向け青森市が誇れる、文字通り誇れるねぶた祭の構築を目指す。
- ・ねぶた祭を本当に良いものにし、市民や観光客の為になるねぶた祭にしていきたい。
- ・今日の第1回目として、今までの問題点の整理、課題の整理、これからの進め方を中心に会議を進めていきたい。

〈副委員長〉

- ・問題・課題として三点
 - ①人出が減ってきている。
 - ②五所川原立ちねぶたのショック。（観光の目玉として短期間での成功）
 - ③「龍の夢」でも指摘されているねぶたの作者を巡る大変過酷な問題。
- ・もっと通年観光にいかせないか。
- ・ねぶた師の後継者をどうしたら着実に育てていけるか。
- ・カラス対策は押さえ込みに成功したが、根本的な解決策ではないということは皆わかっている。これからどうするか。
(背景として、ねぶたを支える市民、それから地域との関係、位置関係が我々ずれてきたのか、または時代と共に変わってしまったのか)
- ・ねぶたを巡る記録をしっかりと残さなければならないという問題。
- ・これらの問題、課題についての的確に、ドラスティックに答えていく為、この委員会で共に議論し何らかの道を見いだしていきたい。

1. 事務局より会議の目的並びに検討事項について説明

- ①青森ねぶたの保存伝承と継続的な発展を目指し、これからのねぶた祭の在り方や推進組織の在り方等について検証並びに検討

2. 事務局より参考資料について説明（ねぶたビジョン、観光ビジョン他）

3. 〃 ねぶた祭の現状と課題について説明

4. 〃 今後のスケジュールと検討項目について説明

会議概要

1. 「委員会協議内容の報告書」の取り扱いについて

主なる発言

- ・報告書を主催三団体及び関係団体とあるが、関係団体とはどういうところか。
- ・提示という言葉が気になる。皆で一生懸命相当しんどい思いをしてみとめ上げたものが、ただ提示され中途半端な実現や店ざらしにされるということだと残念。委員長や副委員長からもあったように、もうそういう段階ではないと思う。

まとめ 「委員会協議内容の報告書」を提示し、それをアクションプログラムに置き換えて具体的な行動に1つずつ入っていく。それぞれの役割分担も当然そこで決まるので、早速実行に移していく。

2. 特別委員会の守備範囲は

主なる発言

- ・保存会の方向性を出すとなればもう1つ別なものが必要かもわからない。具体化していく組織、さらに煮詰めていく組織、ビジョンを作っていく組織。この特別委員会で1つの基本と方向を出すのか、それをたたき台にして実行委員会や保存会あるいは別な組織がやるのか、着地点をどうするのか。
- ・主催三団体だけではもうちょっと無理になってきているのではないかと感じており、実行委員会を検討する時、組織の在り方とか構成団体等についても検討すべき。
- ・これからのねぶた祭の在り方を検討する特別委員会であり、保存会の必要性、やるべき仕事、メンバー、名称が保存会で良いのか等について検討すべき。
- ・また実行委員会の役割、責務と権限についても検討すべき。祭の課題についても、この機関でやるべきだとか、この場でアイデアを出して提案すべき。

まとめ 保存会の在り方、実行委員会の在り方を議論するときに、各々の役割分担等についても詰めていく。その際に第三者的な組織が必要とか、主催団体に組み入れる

3. ねぶたミュージアムについて

主なる意見

- ・資料には、ふるさとミュージアムとねぶたミュージアムという2つの言葉がでていますが、この委員会ではねぶたミュージアムでいくべきだ。
- ・ふるさとミュージアム構想はゾーンとしての発想。その中でメインとなるものがねぶたミュージアムという認識。

- ・ 1つの建物だけの話でなくて、ラッセランドを含めた周辺一帯を称してふるさとミュージアムとなるのではないか。

まとめ この会議では「ねぶたミュージアム」という位置付けで検討を続ける。

4. マスコミ対策について

主なる意見

- ・ 実行委員会はマスコミの活用や接し方が弱く戦略がない。ここで結論が出たものはきちっと公表すべきだし、案がまとまったりビジョンが出来たもの或いは方向性を出したものは記者会見をすべき。
- ・ むしろねぶたについては企画記事として書いてもらいたい。
- ・ 今まで何人かの記者の方が企画し物申しているのがあるが、同時にこの会議の中身をお知らせすることによって、今現在ねぶたが抱えている問題というものを暴き出されると思うので、逆にレクチャーする位の心構えが必要だと思う。
- ・ マスコミの方も担当がいろいろあることから、本当に社会的なこととしてきちっと捉えてくれるセクションに声掛けすることが大事。
- ・ 新聞記者や放送記者の方とディスカッションする場があってもいいと思う
ある新聞記者はねぶた祭を2、3年止めればいいと言っていた。昔のような遠くから囃子が聞こえ、ねぶたが見えてくる、というようなドキドキ感が感じられない。市民にとって本当にねぶたは必要なんだろうかとか、市民の手から祭が離れてしまっているのではないかと、いろいろなことを言っていた。
- ・ 営業としてのマスコミでなく、取材とか編集とかそういうマスコミの方との話し合いの場が必要だと思う。

まとめ マスコミ対策については、皆様の意見を踏まえながら対応の仕方を検討する。

5. 会議録の公表について

主なる意見

- ・ 毎回の議論を特別これはまずいという以外は基本的にホームページ等を通じて公表・公開すべき。もし、委員の皆様のご理解が得られれば、全員の方のお名前を出して発言内容も出すべき。市民の方も結構関心があるし、今の祭に対する要望とか疑問とか、質問等もあるわけで、そういう人達の智恵や意見を聞きながらやっていってはどうか。
- ・ 会議でどういふ話がなされ、議論が戦わされているのか、組織や団体を代表しその立場で発言が求められ、利害が関係し違ふ形で表現したり、或いは抑えてしまうということもあるかもしれないが、その経過を市民に読んでもらい、市民がどう思っているのかと言うことが一番大事なのでないか。色々な市民の意見を聞く

べきだ。基本的に公開、ホームページで公開、ある程度話されたことを変に整理しないで公開すべき。

- ・全てを公開するとなると、まず量的に膨大なものになるのではないか。また、この会議は個々の利害関係にも触れざるを得ない場合があり、すべて公開となると様々な問題が危惧される。
- ・我々の話し言葉というのは結論を言わないで、言葉の抑揚でわからせることも沢山ある。テープを聴けばわかるが、文字にすると実は反対の意味に取られることが沢山ある。オープンにする時はその事に十分配慮し提供すべきだ。
- ・様々な方の意見を聞くことは大事だが、我々が短時間にいろいろなことを進める時に、相当振り回されることは覚悟しなければならない。事務局を含めて、それはちょっと厳しいのではないか。
- ・組織を代表し発言する場合は、一言一句が組織に帰った後説明責任が出てくる。そうすると誰も発言しなくなる。
- ・ホームページは非常にアクセス数も多いけれども、よく見ると本当に見てない、聞いてない人が、ひどい罵声暴言を浴びせているというケースが多い。人格を否定しているケースもありそういうことに惑わされる危険性もある。せっかく公開しても、市民の声をということが逆になるケースも考えられる。中間でフォーラムなりを開催し、直接市民、県民の声を聞く方法もあると思う。

まとめ

- ・会議録の公表は、実名を出すことによって、利用されたりとか様々なリスクが考えられる。委員の皆様にはリスクを容認してまで、この委員会に所属していただいているわけではないので実名を出すことは控えたい。
- ・その意味では固有名詞（実名）は出さないで発表されるべきである。それがたとえ 個人のホームページであっても皆様の了解を得にくい。
- ・結論として個人のホームページであっても個人名（実名）は出さない。
- ・この委員会については論点整理を行い、或いはそれについての付帯の意見には氏名を出さないで載せるということで第1回目をスタートしたい。

6. 議論項目とスケジュールについて

主なる意見（項目追加）

- ・囃子についての課題も結構あるので、例えばねぶた製作という下あたりに囃子の項目も設けるべき。何が正調だとか、いろんな叩き方の問題とかある。
- ・海上運行と花火大会の項目も設けるべき。何処が主催とかは別にしてねぶた祭には海上運行と花火大会も含まれる。
- ・ねぶたの審査と表彰を含めた懸賞のことも項目に入れて欲しい。

主なる意見（スケジュール及び今後の進め方）

- ・現状と課題があり対策とあるが、これに付け加える項目が何項目か増えてもいい

ので、それをどんどんつぶしていく方法でこの会議を進めるべき。

- ・議論する項目を整理しピックアップすれば時間のロスもなくなると思う。
- ・現状と課題ということで整理されていない整理点について、外に出してこの他にどんな問題があるのか聞くことも大事だ。
- ・今日のまとめを1回してホームページに載せて聞くことも大事だと思う。
それを受けて、じゃあどういった柱立てで我々が第何回目だったら何回目に議論していくかという割り振りをすべき。重要度の問題もあり、それをこの次の冒頭で1回やるべき。
- ・現状と対策案について、問題なのか、課題なのか、対策案なのか整理が必要だ。
- ・この会議に臨むにあたり、各委員もそれぞれ議論するテーマや柱を考えてきたと思うので、FAXでもいいから事務局に次回まで提出する

まとめ

- ・検討項目についてはもう1度見直し整理をして、1年間位のスケジュールで組み直しをする。
- ・来年3月という1年間というスケジュールが示されたけれど、それには拘らなで柔軟に進めてる。1年から2年かかるものもあるかもしれないし、実行に移すにも優先順位が必要である。

7. その他の意見

①ねぶた特区について

- ・課題を克服する1つの手段という視点で、是非声を上げていきたいのが、「ねぶた特区」ということを提案したい。
- ・青森らしさ、それから現状の課題の克服の1つの解決策、或いはさらに飛躍する為の発信ということで、まつり特区、ねぶた特区について考えてみれば面白いと思う。
- ・例えば、警察の問題や道路使用であるとかそういう解決策になるかもしれないし、いろいろ想像は膨らんでくると思う。
- ・青森でなければ、また祭ということに関しては先駆けてやる責務はあるかもしれない。

②記録の保存について

- ・アーカイブ機能、記録の保存ということについて検討すべき。
- ・毎年行われているねぶたの記録、制作者や運行団体に拘わらず確実に記録を保存していかないと、将来のねぶたを研究していくにしても、さらに発展を図る上でも絶対必要。
- ・ねぶたミュージアムが出来た時に、皆さんに共通して将来使っていただけるような記録として保存していくといったようなことが出来れば永久性が保てる。

- ・過去も含めて、可能な限り写真にしても、いろんな書き物にしても、報道ファイルにしても記録を保存していく必要がある。

③ラッセランド内の駐車場の問題について

- ・駐車スペースが狭く各団体で大きな問題となっている。
- ・来年度以降の対策ということで、観光コンベンション協会が調整機関となり運行団体協議会と安方みなとまつり実行委員会との話し合いの場を設け協議する。

8. 次回開催日

- ・8月26日（金）13時30分～15時30分

以 上